

平成29年度 山口県学力定着状況確認問題の結果について【中学校】

下松市教育委員会

結果の公表に
あたって

平成29年度「山口県学力定着状況確認問題」(平成29年10月25日実施)の結果についてお知らせします。

本問題は、小学校3～6年生と中学校1、2年生を対象とし、国語、算数・数学(小学校5年生は社会・理科、中学校2年生は社会・理科・英語も実施)の学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境の状況を調査し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図ることを目的として実施しました。

今回の結果をもとに、本市におきましても、学校と家庭・地域が連携・協働し、一体となった取組を推進して参ります。

教科に関する
問題の結果に
ついて
(下松市)

【国語】 1年生・2年生ともに県平均正答率とほぼ同程度である。

【数学】 1年生・2年生ともに県平均正答率を上回っている。

【社会】 県平均正答率を上回っている。

【理科】 県平均正答率を上回っている。

【英語】 県平均正答率を大きく上回っている。

→ どの教科も県平均正答率を上回るか同程度の結果です。特に英語のがんばりが目立ちます。各教科で二つ以上の事象を関連付けて答える設問の出題が増加傾向にありますが、不十分な解答が見られ、今後の課題といえます。

◎ (市平均正答率の高かった問題) ▲ (市平均正答率の低かった問題)

国語

- ◎ 漢字を正しく読むこと(1年・2年)
- ◎ 文脈に即して接続語を適切に使うこと(1年・2年)
- ▲ 意図に沿った語句を選択し、理由について説明すること(1年)
- ▲ 歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直すこと(2年)

数学

- ◎ 比例、反比例のグラフや表について理解すること(1年・2年)
- ◎ 事象における数量の関係を見いだすこと(1年)
- ▲ 事象における数量の関係を見いだし、一般化した式をつくること(1年)
- ▲ 文字式を用いて、根拠を明らかにして説明すること(2年)

社会

- ◎ 正距方位図法の地図から情報を読み取ること
- ▲ 特定の地域の雨温図を選ぶこと
- ▲ ある社会的事象の特徴について、別の要素と関連付けて説明すること



理科

- ◎ 実験結果から規則性を見いだすこと
- ▲ 実験結果を数値で捉えて分析し、考察すること
- ▲ 凝灰岩と砂岩のつくりの違いを理解していること



英語

- ◎ 英語を聞いて、絵の状況を適切に表現しているものを選ぶこと
- ▲ 前後の英文から意味のつながりを考えて、適切な英文を書くこと
- ▲ 英文を読み、その内容に関する質問の答えを考え、空所に入る適切な語を答えること



課題の見られた
問題例

国語 意図に沿った語句を選択し、理由について説明する問題【1年】

維新の志士も歩いた歴史の道「萩往還」
ア ※ キャッチフレーズ



～90分の歴史散歩～「萩往還」を体験

歴史の道「萩往還」は、山口県萩市から長門市に至る約40kmの歴史の道です。この道は、明治維新の志士たちが歩いた道であり、歴史を感じながら歩くことができます。また、美しい自然環境を楽しむことができます。ぜひ、この歴史の道を体験してください。

- 左のようにレポートをまとめます。ア)には、レポートの内容にふさわしく、実際に歩いてみることをうながすようなキャッチフレーズを付けたいと考えています。最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。また、それを選んだ理由についてレポートから引用して書きなさい。
- 1 歩いてみませんか 歴史の足音を
 - 2 ハイキングコースとして 運動不足の解消にぴったり
 - 3 苔むす石畳と紅葉が誘う タイムマシンへ
 - 4 志士の道を 車窓から 眺めてみませんか

* 平均正答率が20%台であり、県平均正答率よりも低い状況が見られました。

数学 数量の関係を見だし、一般化した式をつくる問題【1年】

プリントの枚数 (枚)	必要な画びょうの個数 (個)
1	6
2	$6 + 4 \times 1 = 10$
3	$6 + 4 \times 2 = 14$
4	$6 + 4 \times 3 = 18$

- 4枚のプリントを掲示するときに必要な画びょうの個数を求めるために、左のような表をつくりました。山口さんは左の表から、n枚のプリントを掲示するときに必要な画びょうの個数が、次の式で表されることに気づきました。イ、ウ に n を使った式を入れなさい。
- $6 + 4 \times (\text{イ})$ 個となり、この式を簡単にすると ウ 個となる

* 県の平均正答率を下回り、10%に届かない低い正答率でした。

社会 関連付けて説明する問題【2年】

おもな幕府の直接の支配地 (幕領)

<ul style="list-style-type: none"> ・蝦夷地 ・京都 ・大阪 ・奈良 ・長崎 ・佐渡 ・生野 ・石見 	など 約400万石
--	-----------

- 江戸時代に中国銭が使われなくなり、国内の金貨や銀貨などで対応できるようになったのはなぜか、左から関係のある地名を具体的に取り上げ、説明しなさい。

* 平均正答率が10%を下回る状況が見られました。

★ **学 校**

- **学校の組織的取組の強化**
(教科・学年の枠を超えた研修の推進、学力向上プラン等の見直し・改善)
- **児童生徒の「学習力」の向上をめざす授業改善**
(「キラリくだまつ授業づくり」の活用、誤答分析を生かした授業改善等)
- **校内研修の活性化と指導の充実**
(「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業、「やまぐち学習支援プログラム」や「ジャンプアッププリント」の活用、個に応じた補充学習等)

★ **家庭・地域**

- **学習・生活習慣の確立**
(「家庭学習の手引き」等の活用、家庭における生活習慣の見直し等)
- **コミュニティ・スクールを生かした学習支援**
(地域の人材の活用等)



★ **下松市教育委員会**

- 「キラリくだまつ授業づくり」の実践事例の紹介
- 課題と考えられる状況等の情報提供
- 学校訪問等による指導・助言
- 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりに関する指導・助言
- 下松市学習指導実践研究校の指定
- 下松市教育研究所における実践研究とその普及